

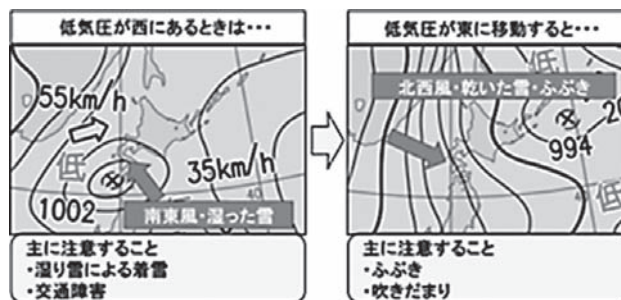
広報版「防災きこない」 ～12月の大雪について～

12月に渡島・檜山地方で大雪をもたらす要因には「冬型の気圧配置」と、「低気圧」があります。

「冬型の気圧配置」は、天気図の西側に高気圧、東側に低気圧がある「西高東低の気圧配置」とも言われ、日本海側を中心に雪を降らせます。

また、「低気圧」が渡島半島の西側にあるときは南寄りの風による湿った雪に、東側に移動後は北寄りの冷たい風が変わるため、日本海側を中心に乾いた雪による吹雪や吹きだまりに注意が必要です。

大雪が予想される時には路面状況の悪化とともに公共交通機関の運休などの交通障害に注意が必要です。年末年始などで帰省やお出かけをする際には、気象庁のホームページやテレビなどで最新の防災気象情報を確認し、悪天候のときには無理な外出は避けましょう



低気圧の位置と風向きによる雪の特徴

【気象庁ホームページ】 →
「大雪・暴風雪に関する
最新の防災気象情報」



■お問い合わせ

総務課総務財政グループ ☎01392-2-3131

ごみ処理の状況と減量化のお願い

■ごみの収集量について

令和4年度に木古内町で収集・処理されたごみは年間約1,274トンで、1人当たり約347キロ（1日約950グラム）のごみを排出していることとなります。このうち燃やせるごみは約1,121トンで全体の約88%を占めています。

■ごみ収集・処理に係る費用について

令和4年度の木古内町のごみ処理にかかる支出は約1億9,260万円となっており、主なものはごみ処理施設の負担金、ごみの収集運搬費、指定ごみ袋の作成費などとなっています。

この費用からごみ処理手数料（ごみ袋販売料）として収入した約740万円を差し引いた約1億8,520万円が木古内町のごみ収集・処理に係る費用となり、町民1人当たりになると約5万円もの費用がかかっていることとなります。

■ごみの減量化のお願いについて

可燃ごみのうち生ごみの占める量は約40%で、生ごみの重量の約80%が水分と言われ、生ごみをそのまま捨てるとごみ処理施設で処理する際に大量の燃料を消費します。しっかりと水切りをすることで、ごみ処理施設で発生する二酸化炭素の排出を抑え環境負荷を軽減することができ、処理に要する費用も軽減することができます。

各家庭での分別や地域での資源ごみ回収を利用し、ごみの減量化にご協力をお願いします。

■お問い合わせ

町民課住民グループ
☎01392-2-3131

